

桃青



とにかくオブジェとコラージュ

金氏徹平 河井寛次郎 川端健太郎 森千裕 八木一夫 矢野洋輔

企画・監修 金島隆弘

協賛 一般財団法人 美術文化財団

会期：2022年12月2日（金） - 2022年12月24日（土）

桃青京都ギャラリー

〒604-0924 京都市中京区一之舟入町 375 SSS ビル 1 階

開廊時間：11:00-18:00 定休日：日・月

※最終日 16:00 閉廊

桃青

プレスリリース

桃青京都ギャラリーでは、美術、工芸、絵画、陶彫、木彫などのジャンルにとらわれず、それぞれの時代に、自らの思想や表現、素材をコラージュしながらオブジェクトをつくりあげる作家によるグループ展を開催いたします。「兎に角」「オブジェとコラージュ」をテーマに、金氏徹平、河井寛次郎、川端健太郎、森千裕、八木一夫、矢野洋輔の6名の作家による作品をギャラリーに点在させながら、「とにかくオブジェとコラージュ」に展覧会を構成いたします。

金氏徹平は、日常にある身の回りのオブジェクトを素材に部分を切り抜き、繋ぎ合わせていくコラージュ的手法を用いて、既存の具体的な意味や用途から解放された形象や風景をダイナミックに表現した作品で知られています。彫刻、絵画、写真、映像から舞台美術など表現は多様な領域を横断し、近年ではミュージシャンや写真家など様々なジャンルの専門家と積極的にコラボレーションを展開しています。横浜美術館、森美術館、KADIST（フランス、アメリカ）、Queensland Art Gallery & Gallery of Modern Art（オーストラリア）など国内外のミュージアムに作品が収蔵されています。

河井寛次郎は、陶芸家、詩人、造形作家、インテリアデザイナーなど、多様な顔を持ち、生涯にわたり、膨大な作品を残しました。戦後は既存の概念にとらわれない自由な形状を持つ作品やアクション・ペインティングのように釉薬を刷毛で打ちつけたような作品などを残しており、その芸術性は国内外で高く評価されました。晩年は独創的な造形作品、陶彫や木彫、あるいは詩作など、日本陶芸史以外にも大きな足跡を残し、多彩な作品は今なお私たちが魅了し続けています。

川端健太郎は、磁土とガラス片という異なる素材を組み合わせるユニークな技法や銀やプラチナなどによって生み出される多彩な釉調によって、深海の生き物を思わせるような独特な造形のオブジェを制作するなど、独自の感性と造形力で他に類を見ない作品を発表し、国内外で高い評価を集めています。頭から発せられた信号が、それらの架け橋を通り指先に届き、作品が放つ有機的かつ艶めいた表情、また磁土を成形する上での高度な技術力が光る神秘的な造形は、繊細な指先の感触によってこそ現れてくる唯一無二のものであり、観る者を引きつけます。

森千裕は、看板の文字や商標など独自の視点による観察を通じて切り取った都市生活の断片と子供の頃に夢中で描いた絵などをコラージュのように組み合わせ、絵画、ドローイング、彫刻、写真、立体、映像など多様な手法で作品を発表しています。それぞれの作品には、不穏さと美しさ、生の残酷さと面白さなどの相反する要素が共存する不思議な世界が表現され、観る者は社会の常識や固定観念を自由に組み替えようとする独特の視線と世界

桃青

観を感じ取ることができます。

八木一夫は、戦後復興期に伝統にとらわれない新しい陶芸を目指し、前衛陶芸家集団「走泥社」を結成主宰、器としての用途性を持たない「オブジェ焼」と呼ばれる彫刻的な作品を発表し、陶芸の世界に新分野を確立しました。生涯を通じて、白化粧や無釉焼締、信楽や黒陶など次々に作風を変えながら造形表現は一層の飛躍を果たし、詩的で機知に富んだ数々のオブジェ作品を生み出しました。それらのオブジェ作品は今なお観る者に新鮮な驚きを提示し続けています。

矢野洋輔は、素材となる木との出会い、木そのものが持つ独特の色・形・模様の面白さといった個性との対話から始まり、一つとして同じものがない節や枝などの特徴などに寄り添いながら、素材としての木や自然そのものの中にある「かたち」を作り上げていきます。異なる種類の木材を接着させた作品は、それぞれの木はおのずから繋がっているようにも見えます。木の素地のみで作られ出された木彫は、芸術表現という域を超えて、観る者に自然と人間との共生のあり方について思いを巡らせることを促します。

本展を通してそれぞれの作家独自の感性が共鳴しあう独特の世界をご高覧いただけますと幸いです。

作家紹介

金氏徹平（かねうじ・てっぺい）

1978年生まれ、美術家・彫刻家。京都市立芸術大学美術学部彫刻科准教授。2003年京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程彫刻専攻修了。主な個展に「消しゴム森」（金沢21世紀美術館、2020）、「金氏徹平のメルカトル・メンブレン」（丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、2016）、「四角い液体、メタリックなメモリー」（京都芸術センター、2014）、「Towering Something」（ユールンズ現代美術センター、2013）、「溶け出す都市、空白の森」（横浜美術、2009）など国内外での展覧会のほか、舞台美術や装丁も多数。あうるスポットプロデュース「家電のように解り合えない」（2011）、KAATキッズ・プログラム2015おいしいおかしいおしばい「わかったさんのクッキー」（2015-2016）、KYOTO EXPERIMENT 2019 チェルフィッチュ x 金氏徹平、「消しゴム山」（2019）、チェルフィッチュ x 金氏徹平「消しゴム森」（金沢21世紀美術館、2020）での舞台美術をはじめ、自身の映像作品を舞台化した「tower (THEATER)」（ロームシアター京都サウスホール、Kyoto Experiment 2017）では演出を手掛ける。

桃青



川端健太郎（かわばた・けんたろう）

1976年埼玉県生まれ。1998年東京デザイナー学院陶器科を卒業、2000年多治見市陶磁器意匠研究所を修了し、現在岐阜県にて制作を行う。主な展覧会に「カルージュ国際陶芸展」（スイス、2003）、「装飾の力」（東京国立近代美術館工芸館、2009）、「京畿道世界陶磁ビエンナーレ」（韓国、2009）、「カラーやきものの密かな関係」（岐阜県現代陶芸美術館、2010）、「SOFA シカゴ」（シカゴ・アメリカ、2010）、「現代陶芸現象展」（茨城県陶芸美術館、2014）、「PUNK 工芸－魂の救済」（楽翠亭美術館、2016）、「vol. 10 川端健太郎」（ishoken gallery、2020）、「凸凹 Bumpy」（Nonaka-Hill、ロサンゼルス、2021）、「Yours Truly」（High Art、パリ、2022）などがある。ま

桃青

た「±8 — A Group Exhibition of Contemporary Ceramics」(SHOP Taka Ishii Gallery, Hong Kong、2018)のキュレーションを行なっている。主な受賞歴は「織部の心作陶展」大賞(2001年)、「益子陶芸展」加守田章二賞(2004年)、「パラミタ陶芸大賞展」大賞(2007年)などがあり、またコレクションにはアナドル大学美術館(エスキシェール・トルコ)、益子陶芸美術館(益子・栃木)、土岐市(土岐・岐阜)、パラミタミュージアム(三重)、牛田コレクション(多治見・岐阜)、ミネアポリス美術館(ミネアポリス・ミネソタ・アメリカ)がある。



森千裕 (もり・ちひろ)

1978年大阪府生まれ。2005年京都市立芸術大学大学院修士課程美術研究科絵画専攻修了。17年に美術館初個展「OMOIDE IN MY HEAD」(豊田市美術館)を開催。その他の主な個展に、「カラフルなヌカルミ」(CAPSULE、東京、2012)など。これまでの展覧会に、「Vong Co RAHZI」(blum

桃青

& poe、東京、2019）、「世界を開くのは誰だ？」（豊田市美術館、2019）、「百年の編み手たちー流動する日本の近現代美術ー」（東京都現代美術館、2019）「CHILDHOOD Another banana day for the dream-fish」（Palais de Tokyo、パリ、フランス、2018）、「In Focus: Contemporary Japan」（ミネアポリス美術館、ミネアポリス、アメリカ合衆国、2018）、「六本木クロッシング 2013 アウトオブダウト」（森美術館、東京、2013）、「絵画の庭ーゼロ年代日本の地平から」（国立国際美術館、大阪、2010）、「夏への扉ーマイクロポップの時代」（水戸芸術館現代美術ギャラリー、茨城、2007）など。2011年VOCA奨励賞受賞。2019年には、「東京2020公式アートポスター」の制作アーティストのひとりに選ばれた。

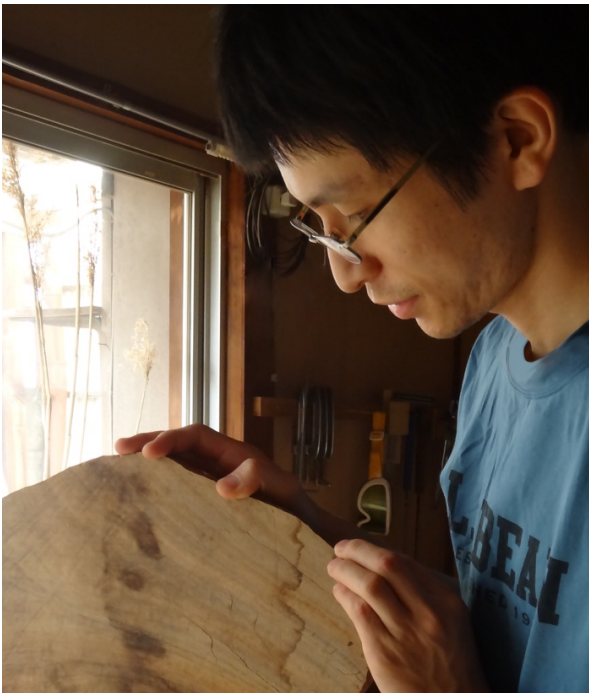


矢野洋輔（やの・ようすけ）

1989年京都府生まれ。2014年京都市立芸術大学美術学部工芸科漆工専攻卒業、2016年京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程漆工修了。主な個展に「露と瘤」（ギャラリーwks、2020）、

桃青

「寝ている木 踊っている木」(板室温泉大黒屋、2019)、「かたち廻る木」(FINCH ARTS、2019)、「出てきた根」(ギャラリーモーニング、2018)、「石 木 水」(同時代ギャラリー、2017)、「落ちている宝石」(ギャラリーモーニング、2015)、「壁に貼る幽霊」(ギャラリーモーニング、2014)がある。また、主なグループ展に「根の力-THE POWER OF ORIGIN-」(大阪日本民芸館、2021)、「物と視点」(kumagusuku、2021)、「春日山アートプロジェクト」(奈良市内複数回、2021)、「FLYING WUNDERKAMMER」(toberu、2019)、「京都府新鋭選抜展」(京都文化博物館、2019)、「ARTISTS' FAIR KYOTO」(京都文化博物館、2018)、「西太志 + 矢野洋輔展「居心地の良さの棘」」(8/ART GALLERY/ Tomio Koyama Gallery、2017)がある。2018年第13回大黒屋現代アート公募展大賞受賞。



桃青

ぜひ、貴誌・貴社にてご紹介いただけますと幸甚に存じます。
掲載用、写真の貸出などご質問がございましたら下記までご連絡頂けますと幸いです。

桃青京都ギャラリー

担当: 浅野達也

〒604-0924 京都市中京区一之船入町 375 SSS ビル 1 階

asano@gallerytosei.com

Tel: 075-585-5696 Fax: 075-585-5695